



地震対策に向けて

あなたの住まいは
大丈夫？

問い合わせは審査課 (☎ 754・6339)

阪神淡路大震災では、建物の倒壊により多くの方が亡くなられました。このとき倒壊した建物のほとんどが旧耐震基準で建築された住宅でした。これから起こりうる巨大地震から大切な生命・財産を守るため、耐震補助をご利用ください。

安全・安心な耐震補助の活用を

耐震診断をして強度が足りないことが分かった住宅は、耐震改修を行う必要があります。改修するのに必要な耐震設計も補助します。

◎木造住宅耐震診断補助 対象は市内にある次の住宅の所有者で、市税

とにかく耐震診断	上限5万円を補助
しっかり耐震設計	上限10万円を補助 (費用の7割以内)
あんしんの耐震改修	上限100万円を補助 (費用の1/2以内)

※昭和56年5月31日以前の木造住宅に対する補助額です。また、特定既存耐震不適格建築物（病院や学校など、多くの方が利用する施設）に対しても耐震診断補助があります。

を滞納していない方●昭和56年5月31日以前に建てられた2階建て以下の木造一戸建て住宅●現在、居住している住宅(予定含む)

◎木造住宅耐震設計補助 対象は耐震診断補助と同様の住宅を所有する方

※耐震診断と設計補助を一緒に申請することができません。

◎木造住宅耐震改修補助 対象は耐震診断補助と同様の住宅を所有する年間所得が1200万円以下の方

※補助を受ける場合は、必ず事前申請が必要ですので、着手前にお問い合わせください。詳しくは市ホームページをご覧ください。

住まいの耐震について分かりやすく理解していただくため、自治会やグループを対象に市職員による出前講座も実施しています。

北摂で最古の部類の不動明王 常福寺蔵の不動明王坐像が 市指定文化財に

市教育委員会は、常福寺(神田3丁目)の木造不動明王坐像を市指定文化財に指定しました。

同像は像高49・5センチ、桜材と思われる木材の一木造り、彩色仕上げで、平安時代の10世紀後半の制作と考えられるものです。同寺本堂の本尊(木造千手観音立像=市指定文化財=)に向かって左側に安置され、病や安産、災害除去などの祈願をかなえてくれるとされています。

現在、北摂地域には平安時代の不動明王像が少なく、



最古の部類に属すると思われること(摂津市の金剛院にも不動明王立像=府指定文化財=があり、平安時代の作とされているが詳細は不明)、保存状態が良好であることから対象となりました。

問い合わせは生涯学習推進課 (☎ 754・6295)



第1回

5人のチャンピオン寄席

社会人落語日本一決定戦の歴代名人が勢ぞろいして落語会を開催します。

とき=6月29日(日)午後1時~3時30分 ところ=落語みゅーじあむ 内容=〈五月家ちろり〉七度狐〈芸乃虎や志〉お見立て〈二松亭ちゃん平〉がまの油〈三流亭楽々〉八五郎出世〈銀杏亭魚折〉化け物使い 費用=700円(前売り500円) 問い合わせ=同館 (☎ 753・4440)

※前売り券は電話でも受付しています。

わがまち
歴史散歩

市史編纂だより106

「戦後」と「戦後池田」

について考える ⑱

前号までに見た農業とともに商業、とくに小売業は地域に密接した生業である。池田は、かつて北摂一の物資の集散地といわれた。しかし、鉄道・道路などの輸送機関の発達に加え戦時の経済統制などの影響で、戦前以来、集散地の役割に陰りが見え始めていた。

物資の集散地

西本町は、呉服橋から猪名川に沿って広がる街である。その町で、榎野きぬ子さんはもち屋、中川三郎さんは鶏肉屋を営んでいた。

お二人の話によると、戦後もしばらくは西本町が池田で一番繁華な商業地であったという。「川西のお客様さんが呉服橋を越えてね、来てくれはったんですよ」。新町はその西本町の北側に接している。能勢など「オク」から持ち込まれる木炭などの商品が卸され、その「オク」の人たちが西本町・新町で買い物もした。ところが、川西側に独自の商圈が形成され、卸機能が一層失われるなど商

業環境が変化し、両町の商業が衰えた。後の事業者の高齢化も衰退を加速させた(2010年4月3日採話)。

近代化と新しいニーズ

池田市には、戦前から阪急「池田」駅と「石橋」駅周辺に商店街があった。西本町・新町の後退と対照的に、商業地の顔に浮かび上ってきたのは両駅周辺である。鈴蘭灯とアーケードは、大正・昭和初期に大都市モダンの表れとして出現した。本町・栄町商店街は1951(昭和26)年に鈴蘭灯を取り付け、アーケードは本町・栄町が1959年、石橋は1962年に完成した。石橋で薬局を営んでいた西トミエさんは、「栄町いうたらもう大都会」「石橋から見たら」と語っている(2009年3月23日採話)。高度経済成長の開始期(1950年代半ば)、商店と映画館など娯楽施設が集まる池田周辺は、石橋に比べ「大都会」と映ったのである。

井関頼三さんは時代の変化を受け、1954年に本町商店街に喫茶店を開く。許可を取りに行った保健所で、「コーヒー売れまっか?」と言われた。次に、ソフトクリームを売り出した。これも「非常に人気」で、十三からこちらでは「一番で出しているっっちゃうことだ」。極め付けは「こつまん」と名付けた回転焼き風焼き菓子。最高で一日に7千個売ったという(2009年4月23日採話)。



1960年ごろの栄町商店街

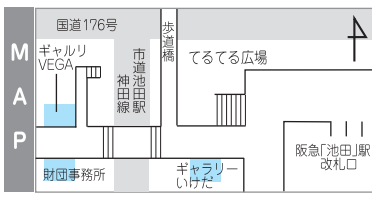
商人とサラリーマン

1965年の池田市において、仕事に就く市民の82%が会社役員を含む雇用者で占められた。池田市はサラリーマンの街、郊外住宅都市であった。とはいえ、地域政治を見ると、事業者の存在感が際立っている。例えば、1967年選出の池田市議会議員のうち、地元商人出身であることが確かな議員は、少なくとも定数の三分の一前後を占めた。市民全体の中の比率より、はるかに高い率である。サラリーマンが議員に立候補するのは困難、地域に目を向ける余裕も乏しい。それに対し、商人は生業が地域社会の動向に左右されるだけに、地域政治への関心が強かったのだろう。

このような中、池田市の商業もまた高度経済成長の大波に洗われた。(池田市史編纂委員会副委員長・芝村篤樹)

問い合わせは生涯学習推進課市史編纂(☎754・6674)

ギャラリーコーナー



【ギャラリーいけだ】

- 青井美弥子回顧展(絵画) ~5/5(祝)
- 菌まゆみワールド(絵画) 5/7(水)~12(月)
- 山本正二・吉田哲夫ふたり展(絵画) 5/14(水)~19(月)
- 「お〜い雲」14 硯貴代司 パステル画展 5/21(水)~26(月)
- 松本保佑 油彩画展 5/28(水)~6/2(月)

【ギャルリVEGA】

- “ふ・わ・ふ・わ”(イラスト・童画・版画) ~5/5(祝)
- 今井画塾Delta展 vol.XV 5/7(水)~12(月)
- ザ・スペース小品展 5/14(水)~19(月)
- 大阪空港カルチャースクール・箕面駅前スクール 合同展(絵画) 5/21(水)~26(月)
- 高村喜美子作品展(絵画) 5/28(水)~6/2(月)
- 津田洋・溝渕優 二人展(絵画) 5/28(水)~6/2(月)

【開館時間】

10:00~19:00(最終日は16:00)

【休館日】 火曜日

【入館料】 無料

【使用料】

〈ギャラリーいけだ〉50,000万円(展示販売不可)〈ギャルリVEGA〉155,000円(プロックの分割使用=72,000・103,000円=、展示販売も可)

【使用期間】 水~翌週月曜日の6日間

【申し込み】 使用希望月の1年前から

使用申し込みは
財いけだ市民文化振興財団
(☎750・3333)